

南太平洋医療隊

South Pacific Medical Team

郵便番号：332-0016 住所：埼玉県川口市幸町 3-8-14

ホームページ：http:sfmt.jp

南太平洋医療隊：Facebookhttps://www.facebook.com/sfmt.jp/

読者の皆様へ

8 月に遠藤眞美がトンガタブ本島を訪問しました。9 月には河村サユリ、内田千鶴、内田実（3 名）がトンガタブ本島およびババウ諸島を訪問しました。トンガ王国は南半球に位置しており、この時期は日差しが強いものの、気温はおおむね 20 度前後とても過ごしやすい気候でした。

トンガタブ本島国立 VAIOLA 病院歯科では今年の 4 月から新たに 4 名の歯科スタッフが加わりました。マリマリプログラム（笑顔を意味する口腔保健を中心とした予防プログラム）は学校巡回専属のドライバー体制を 3 人に拡充し、東部・西部・中央部に分かれて巡回しています。さらに、本島から北へ飛行機で約 1 時間の距離にあるババウ諸島でも、歯科スタッフと専属ドライバーが活躍しています。

本事業は保健省も人員確保が必須で、重要な取り組みと考えています。

8 月 7 日～8 月 15 日

参加者：遠藤眞美(歯科医師)、シシリア（歯科部長）、マフィ（セラピスト）、リオ（ドライバー）、他マリマリチームスタッフ

＜マリマリプログラム（口腔保健を中心とした予防プログラム）の同行＞【8 月 8 日、8 月 15 日】

2 日にわたり小学校計 7 校へのプログラムに参加しました。8 日のプログラムに関しては、その前週が大雨の為、校庭には大きな池のような水溜まりがあり、実施には工夫が必要でしたが、みんなで楽しくフッ化物配合歯磨剤で歯を磨いた後で、フッ化物洗口と体操をしている様子が分かりました。最近、巡回車が新しくなったため、音楽の提供が難しい状況がありました。そのため歯科スタッフが主導して N H K ラジオ体操を行っていますが、子供たちは歯科スタッフを見ながら戸惑う様子もありました。しかし、子供たちは N H K ラジオ体操をよく覚えており、動きも良いのため、音楽なしでのラジオ体操を試してみたらと相談しました。

本当に子供たちの笑顔は輝き、本活動がトンガの暮らしの一部になっていることを実感しました。



2025 年 8 月 7 日～9 月 14 日
2025 年 8 月 7 日～15 日
＜小学校でのマリマリプログラム＞



＜マリマリプログラム専属ドライバー＞



＜障がい者入所施設 ALONGA＞



新たに2人のドライバーに就任されたので、南太平洋医療隊からマリマリプログラムのTシャツを寄贈させていただきました。

< 障がい者入所施設 ALONGA 歯科健診、保健指導、および歯科治療 >【8月11日、8月14日】

8月11日に障がい者入所施設 ALONGA での歯科健診を実施しました。当日は、13の方が施設で待っていました。

マリマリプログラムは長期に渡り実施されているので、口腔清掃状態は良好でした。歯科治療受診に至っていない場合が多いため、多量の歯石などを認めた方は、8月14日に国立バイオラ病院で歯科治療の時間を設けました。5の方が来院し、PMTC、咬合調整などを実施しました。デンタルセラピストのマフィと診療を共にすることで、脳性麻痺の方への姿勢の配慮など日本の教科書も用いながらともに確認・実践しました。

本活動は、ALONGA の Facebook でも、終了後情報提供していました。

< 障がい者通所施設 Mango tree >【8月12日、8月13日】

6月ごろにデング熱の流行があり、通所施設への通所が中止されてスタッフによる訪問巡回が行われていました。今回、Mango tree センターと Ministry of Health との連携事業として計11の方の Home Visiting 巡回に同行しました。

出発時には、歯科部長のシシリア先生がお見送りしてくれました。ご自宅に到着後、みんなで囲んでお祈りをし、日頃の悩みをお聞きしながら歯科健康診査、フッ化物歯面塗布、サホライド塗布、歯磨き指導を実施しました。ご家族からは、歯に関する悩みや歯磨き方法の質問などに加えて、大人用の紙おむつが手に入らないという相談もありました。

本活動は、Mango tree センターの Facebook からオンタイムで配信してくださいました。

<ALONGA にて健診>



<施設の方の歯科受診をサポート>



<訪問巡回>



9月2日～9月13日（9月1日搭乗予定便の欠航により、9月2日から活動開始です）

参加者：河村サユリ(歯科医師)、内田千鶴(歯科衛生士)、内田実(学生)
〈トンガマリマリチーム〉

シシリア(歯科部長)、ナアティ(歯科医師)、メレ(歯科医師)、
サイア(歯科セラピスト)、ダイベイ(歯科アシスタント)、
アンティア(コンピューターオペレーター)、リオ(ドライバー)、
ダイアモニ(ドライバー)、アシナテサマテ（雑務アシスタント）

☆トンガタブ本島☆

<オーラルヘルスデーの開催> テーマ「歯の喪失の影響と口腔リハビリテーション（義歯）の重要性、意識向上」についてフォオネルアコンベンションセンターにて開催されました。要旨ですが、トンガ王国の初めての病院は1907年に開設され、歯科分野は1960年前後に設立されたとのことです。現在トンガ王国の歯科技工士は5名で、仕事内容や義歯を入れた患者さんの体験談が紹介されました。離島を訪問して作業をすることもあります。

2024年9月2日～13日

<オーラルヘルスデー>



2024 年には 324 件の制作物が有り、年々増えているようです。2025 年にプリンセスフシバラ病院（ハアパイ諸島）に技工所が建設され、他の離島にも技工所を建設する予定を立てています。

<歯科技工士による義歯研磨の様子>



次に小学生によるポエムや、歯科スタッフによる歌が披露されました。出席者には歯科スタッフのほか、保健省大臣、WHO（世界保健機構）トンガ事務所長、オーストラリア連邦外務貿易省（DFAT）の職員、国立バイオラ病院医療スタッフ、教師、学生、町の職員、牧師など 100 名を超える方々が参加されました。保健省大臣は、歯科におけるマリマリプログラムは非常に成功していると述べ、医科においても、国内の NCDs（非感染性疾患）が抱える多くの課題に対応するため、このシステムを導入していきたいと話されました。

歯科部長のシシリア先生の提案により、ラジオやテレビを通じた口腔衛生の啓発活動も行われており、マリマリチームで制作し、7 月頃から 1 分程度のコマーシャルとして放送されています。

<歯周病治療について指導>



<国立バイオラ病院歯科室>

診療室では継続的に歯周病治療が行われていますが、未だ定期的に検診を受けるという習慣にはなっていません。今回もトンガ語と英語で作成した歯周病治療について患者さんへの動機づけに使えるようなリーフレットを活用し、また、ハンドスケーラーのシャープニングガイドを作成し活用してもらうよう願いました。

<歯科材料の寄贈>



薬剤管理について確認したところ、鍵付きの薬剤保管庫に保管されており、エアコンにより安定した温度で 24 時間管理されていました。フッ化物洗口剤は現在、薬剤師管理下で計量・管理がなされており、使用法・管理方法共に安全かつ適切に使用できている事を再確認しました。

<歯磨き指導 ババウ諸島小学校>



☆ババウ諸島☆ <マリマリプログラム巡回の現況視察>

ババウ諸島の小学校、幼稚園を計 29 校訪問しました。マリマリプログラムのフッ化物洗口と（NHK ラジオ）体操は継続されていました。体操を行う際、規模が大きい小学校(特に本島)ではラジカセでは音量が足りないため、大きめのスピーカーを本隊から寄贈しました。

教師の活動に対する意識や考えを把握するため、アンケートを配布して調査を実施し、後日回収しました。その結果、多くの教師が本活動の継続を希望しており、協力的な傾向が見られました。

<首相 Hon. Dr. 'Aisake Valu Eke 閣下に対し表敬訪問>

2025 年 1 月 22 日に首相就任された Dr. アイサケ・ヴァル・エケ（Hon. Dr. 'Aisake Valu Eke）閣下に表敬訪問するため首相官邸に訪れました。首相は私達の活動初期から親交のある方で、活動趣旨を理解され応援してくださっています。前職からの財務大臣も兼任しており、トゥボウ 6 世（王様）からも厚い信頼を得ている方です。

<中央がアイサケ・ヴァル・エケ首相>



～今後の予定～

トンガ王国保健省バイオラ病院歯科室は、2023 年に南太平洋地域の WHO（世界保健機構）アワードへ「Malimali（Smile）Project-School-Based Fluoride Mouthrinse in Tonga Schools since 2000」を応募し、「THE WHO HEALTHY ISLANDS BEST PRACTICE RECOGNITION」を受賞しました。

2025 年まではフッ化物洗口剤は当隊が日本で購入し寄贈していました。今後について歯科室と当団体は今後について模索し、マリマリプログラム継続に必要不可欠であるフッ化物洗口剤を、トンガ王国が WHO の協力のもとで自国調達していく方向性で進んでいくと思います。その原資はオーストラリアンエイド（DFAT）が活用されていくと考えています。

これまで当隊とともに自国での調達方法を模索してきた中で、方向性がみえてきた事で喜ばしく考えています。フッ化物洗口剤の供給システムが確立されれば、トンガ王国のみならず太平洋諸国全体に予防を中心とした歯科保健の発展につながると期待しています。

＜ペットボトルをコップとして再利用＞



文責者：河村康二